

河内名所図会を歩く⑨〜十三街道・前編(信仰の道)〜

江戸時代の『河内名所図会』で紹介された大阪と奈良を結んだ生駒山地の峠には、十三峠と暗峠(東大阪市)があります。

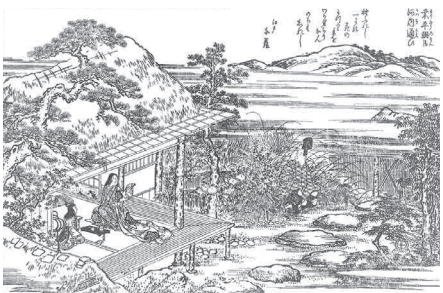
八尾市の神立と奈良県平群町の境にある十三峠から大阪市の玉造に至る十三街道は、古くから奈良と大阪を結ぶ重要な街道でした。今回は十三街道を神立から十三峠に向けて歩きましょう。

神立にある地藏堂から水呑地藏院までの街道筋には、対になった石仏が続きます。石仏には、番号がつけられ、弘法大師と釈迦如来や地藏菩薩などが組み合わされています。石仏を見つ進むと、平安時代の在原業平が十三街道で奈良から通った「業平の高安通い」の地として有名な茶屋辻に到着します。『河内名所図会』でもこの場面が挿絵で描かれています。茶屋辻の南には、平安時代の延喜式に記された古い歴史を持つ玉祖神社があります。

茶屋辻から、さらに坂道を登っていくと、水呑地藏院に着きま

す。水呑地藏院は平安時代の高僧・禿演が開いたとされ、ここに湧く清水は街道をゆく旅人ののどを潤したといえます。

水呑地藏院から十三峠はもうすぐです。峠の北側に、峠の名の由来になった十三塚(国重要有形民俗文化財)があります。十三塚は、中央の大きな王塚を中心に十三基の円墳状の塚が連なっています。古墳ではなく、中世以降の十三仏信仰により造られたものと考えられています。



▲「業平の高安通い」の場面

問 観光・文化財課

☎ 9 2 4 ・ 8 5 5 5

FAX 9 2 4 ・ 3 9 9 5